

平成 25 年度

鳥取県議会台湾訪問団

報告書

[平成 25 年 10 月 23 日 (水) ~ 26 日 (土)]



国立陽明高級中学 林校長、
何家長会会長を囲んで記念撮影

鳥取県議会

1 訪問日程及び訪問先

平成25年10月23日（水）～26日（土）

台湾（台中市、桃園市、台北市）

※ 詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団長 山口 享 議員

副団長 藤繩 喜和 議員

秘書長 広谷 直樹 議員

砂場 隆浩 議員

<随行> 議会事務局 調査課 課長補佐 賴田 慎

調査課 係長 前田 秀明

文化観光局 交流推進課 國際交流員 陳 澄如（チェン インルー）

3 所感及び県政に対する提言

今回の県議会による台湾訪問団は、鳥取県と台湾との農業、スポーツ及び学校交流並びに台湾への農産物輸出の状況と今後の推進方策について調査することを目的に、台中市、台北市等を訪問した。

まず、自治体間交流に関する所感について具体的に述べたい。

本県と台中市との交流は、1997年から梨の穂木を輸出したことが契機となり、旧台中県との交流が始まっている。2010年12月に台中県と台中市が合併し、人口268万人の新たな台中市が誕生した後も継続され、足かけ16年間の長きに渡り、様々な分野で交流を深めている。県内でも、三朝町が石岡区（旧台中県石岡郷）と、北栄町が大肚区（旧台中県大肚郷）との交流を継続して行っている。

日本と台湾は国家間の正式な国交がなく、尖閣諸島の領有権を巡っては、両国間に摩擦が生じたものの、現在、経済的、文化的な交流がさらに進展しており、貿易額は過去最高を記録するなど安定的な友好関係が築かれている。このような背景から、日本・台湾の自治体間の交流も一層盛んになってきている。

先ほども述べたように本県と台中市は、長い交流の歴史があり、今後はこれをさらに深化させるため、2つの提言を行いたい。一つ目は、2018年に台中市で開催予定の国際花博に本県が県内造園業者などの協力も得て出展すべきだと考える。理由として、①全国都市緑化フェアやエコツーリズム国際大会等の自然・緑に関するイベントの開催など、今年取り組んだ「グリーンウェイブ」の成果を次に繋げ、発展させていく必要があり、また、台中市政府の訪問に同席した造園関係団体の方からも、国際花博に協力したいとの意向が示されていることから、官民挙げて、「グリーンウェイブ」の取り組みを進める好機であること、②とつとり花回廊が有している花の栽培技術を活用し、国際花博に協力していくことが可能であること、③国際花博の参加を通して、本県と台中市との絆を深め、これを国際的な舞台で情報発信できること、④全国都市緑化フェアなどで培った県内造園業者の新しい事業展開を提供できること、などを挙げたい。二つ目は、自治体の首長同士が頻繁に行き来する環境を整備していくべきだと考える。2012年には平井知事が国際まんが博のPRのため、台中市を訪問されている。鳥取県の自然・文化・歴史等に触れていただくためにも、今

度は、反対に国際花博のPRも兼ねて、胡志強 台中市長にご来県いただく環境を整えていくべきだと考える。そして、将来的には正式な友好連携協定を提携することも視野に置くべきと考える。

次に高校及び大学間交流について述べたい。

今回訪問した桃園市にある国立陽明高級中学（日本の高等学校に相当する）は、1992年に創設され、普通科57クラス、美術科3クラス、生徒数約2,700人の大規模な学校である。同校の林校長は、着任8年目であるが、強力なリーダーシップのもと、学力向上、学校施設の充実等を図っている。他にグローバル教育にも力を入れており、同校の教員・生徒が2008年に教育旅行として、米子東高校を訪問している。これが契機となり、以降、毎年、米子東高校との交流を継続して行っており、国際交流を通じて、柔軟な国際感覚と友好の精神が育まれたと伺っている。校庭に同校の校旗、台湾国旗に並んで、米子東高校の校旗が掲揚されていることからも、同校が米子東高校との交流を重要視し、真剣に取り組んでいることが推察される。

また、同校で特徴的なのは、学校と家長会（PTA）とが、常日頃から緊密な連携を取っており、学校運営に深く関わっていることである。今回の訪問団との意見交換にもPTA会長が同席し、積極的な発言をされていることからも、PTAの存在感の大きさを感じた。

2014年2月に同校と米子東高校が、姉妹校協定を締結する予定であるが、これは、県内の高校が台湾の高校と締結する初めての姉妹校協定である。議会として、次世代を担う若者たちが交流することで、互いの文化・歴史に直に触れ、相互理解を深める取組を積極的に支援していくことが重要である。

また、姉妹校協定の締結は、これまでの両校の交流の証であり、同校からもセレモニーへの出席の要望があることから、議会として、どんな協力ができるか、真剣に検討しなければならないのではないか。

昨年に引き続き、東海大学を訪問した。藤井前副知事を団長とするとつとり国際塾訪問団が、同大学の教員や学生と交流を行ったことが契機となっているが、2012年7月には鳥取大学と国際学術交流協定を締結している。

今年8月には、訪問団の対応をいただいた王教授を含め、農学部学生12名が参加した「東海大学農学部・夏季国際学習キャンプ in 鳥取大学」が初めて開催されている。同大学農学部は、キャンパス内の牧場で乳牛を飼育し、牛乳を活用した乳製品を自ら加工・販売しているが、同大学の加工した乳製品は、とても人気があり、ブランド化している。

今後、食品加工技術の分野に止まらず、同大学から連携強化の要望がなされたきのこ研究、グリーンツーリズム等の分野においても、産官学が連携して、さらなる交流推進を図るべきだと感じた。

また、王教授から台中市に鳥取県の観光、食材、自然などを紹介する施設（アンテナショップ）を設置してはとの提案については、費用対効果、台湾市場の成長力等を勘案した上で、研究を進められたい。加えて、県内での東海大学の大学院生インターシップの提案もあった。ただ単に宿泊施設などで研修するだけでなく、鳥取県内の観光資源を開発するなど大学院レベルの高品質のインターシップを意図しておられ、引き続き、実現を目指して意見交換をしていきたい。

次に、スポーツ交流について述べたい。

本県と台湾とのスポーツ交流は、2002年に台北市に少年野球の親善交流チームを派遣した

ことに始まり、以降、野球やグラウンドゴルフ等の交流がなされているところである。昨年は台湾のジョギング団体が鳥取マラソンに参加され、今年は鳥取陸上協会が台中市で開催されたマラソン大会に参加するなど、マラソンをキーワードとした相互交流が盛んになってきている。

近年、活発化するスポーツ交流を推進していく上で、課題となるのが、移動の負担である。昨年、鳥取マラソンに台湾から参加された方の話を聞く機会があったが、関西国際空港経由で来県されたということであった。今回、我々訪問団は、鳥取空港発着のチャーター便を利用したわけだが、チャーター便は定期航空路線に比べ、航空代金が割高であるが、時間が有効に使えるというメリットがある。スポーツイベントの参加者は一般市民であり、移動負担を抑えることが、参加しやすい環境づくりの一つであると考える。マラソンと観光をセットにした旅行商品の造成やスポーツイベントの開催時期を調整するなど、チャーター便を有効活用することが必要である。LCCも含め、実現に向けて具体的な検討をしていくべきだと考える。

また、今年のサマースクールで、台中市の中学校が来県されたが、募集枠を大幅に超えるほどの人気があったと伺った。台中市教育局から要望がなされたサマースクールの充実についても、検討が必要である。

次に、農業交流及び台湾への農産物輸出等について述べたい。

日本から台湾へは、現在、梨の穂木が多数輸出されているが、今回訪問した石岡区農会が、1998年に梨の穂木を輸入したことから始まる。石岡区農会は、鳥取県の穂木を高く評価されている一方で、近年の鳥取県の対応に懸念を持っておられるよう感じた。そして、訪問団に対して、4項目（①穂木の出荷数の増加、②正確な穂木情報の提供、③防疫検査現場への通訳の配置、④梨の新品種の輸出）に渡る要望がなされた。

梨の穂木の輸出については、梨農家の減少や高齢化により、穂木生産が減少していることから、簡単に解決できる問題ではない。しかし、王石岡区長からも同様の要望があったことから、友好の維持・発展のためにも真摯に対応していかなければならない。帰鳥後、JA等と意見交換を行うとともに、梨の穂木を輸出がきっかけとなり、石岡区と交流が始まった三朝町にも働きかけを行ったところであるが、現在、JAが石岡区農会と協議を重ね、打開策を探っているとのことであった。この問題が少しでも解決に向かって、前進するよう県議会としても努力していきたいし、関係機関等に対しても、働きかけを強めていきたい。

現在、国において、「攻めの農林水産業」の一環として、農産物の輸出拡大に取り組んでいる。本県も梨をはじめとして、農産物の輸出に取り組んでいるところであるが、輸出拡大を図る上で、主要輸出先である台湾の市場ニーズを把握することは重要であるとの認識から、島根県雲南市の米などを取り扱う鼎三國際企業有限公司を訪問した。同社から、輸出向けの產品は、消費期限が長いことが望ましいこと、台湾での販路開拓のためには、物産展を開催することが重要であり、その際には行政のサポートが重要であることや台湾の消費者の嗜好・行動等を伺った。台湾では、日本の農産物は安全安心だと評価されており、今後、市場ニーズを踏まえた上で、県として事業者の支援を行うことにより、可能性が広がる市場であると感じた。

最後に日本・台湾交流について述べたい。

今回、様々な分野での意見交換を行ったわけだが、どの訪問先においても、大歓迎を受けた。これは、これまで培ってきた日本と台湾の絆の深さと日本に対する親近感の高さを感じさせる

ものであった。また、台湾との交流の歴史において、我々が、忘れてはならないのは、一昨年に発生した東日本大震災後に台湾から寄せられた200億円を超える多額の義捐金をはじめ、物心両面に渡る支援である。

このように現在、日本・台湾の関係は緊密かつ良好な関係を維持しており、自治体間においても、また同様である。今後、台湾との絆を更に強固なものとなるよう、次代を担う青少年の相互交流、スポーツ等を通じた交流、農業をはじめとした経済交流などが一層活発となることが期待されるところである。今回の台湾訪問で提言した事項について、具体的な取組みが推進され、台湾との交流が益々発展することを願う。

4 日程表

月日	日 程			移 動	宿 泊
10月 23日 (水)	11:40 15:50 17:00 18:45	鳥取空港→台中空港（日本との時差－1時間） ・台中市政府 表敬（※） ・台中市議会 表敬 ・台中市議会歓迎夕食会（※）		AE7337（チャーター便） 台中市	
24日 (木)	9:30 12:30 13:30 15:30 16:00	・東海大学 調査（※） ・東海大学昼食会（※） ・台中市体育處 意見交換 ・石岡区農会 調査 ・石岡区歓迎夕食会		借上バス 台中市	
25日 (金)	9:35 11:00 12:15 15:00 16:30	台湾新幹線により桃園市へ移動 ・国立陽明高級中学 調査 ・国立陽明高級中学昼食会 ・鼎三國際企業有限公司 調査 ・台湾政府外交部歓迎夕食会		桃園市 借上バス 台北市	
26日 (土)	10:54 14:35	台湾新幹線により台中市へ移動 台中空港→鳥取空港		台中市 AE7336（チャーター便）	

※ 鳥取県日台親善協会と同行程



台中市職員の出迎え（台中空港）



チャーター便（華信（マンダリン）航空）



台湾新幹線

5 訪問先の概要

【平成25年10月23日（水）】

(1-1) 台中市政府（台中市）

〔応対者〕徐中雄 副市長

台中市政府を鳥取県日台親善協会とともに訪問し、徐副市長と懇談を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

＜徐副市長＞

- ・ 鳥取では都市緑化フェアを実施しているとお聞きしている。また、エコツーリズム国際大会など、自然・緑に関するイベントを積極的にされている。台中市も2018年に国際花博の開催が決定している。台中市がメイン会場となるため、これを迎える特別なチームをつくり、準備にあたる。皆様にもぜひお越し頂きたい。鳥取でのイベントの経験をお聞きして、国際花博の参考にしたい。
- ・ イベント会場には鳥取県のブースや屋台などPRスペースを準備するので、出展をご検討いただきたい。こういう世界的イベントの機会を利用して、鳥取県も台中市だけでなく、鳥取の美しさを全世界にPRして欲しい。博覧会の来場者数は100万人以上になると予想している。
→（台湾訪問団）2018年の花博への参加については、持ち帰って議会や知事と相談したい。
- ・ 鳥取県の台中市との交流は熱意が感じられる。鳥取県とは梨の穂木が縁で交流が始まった。民間の訪問も行っていきたい。農業も大事だが、教育分野でも引き続き交流を進めていきたい。
- ・ 私が三朝中学校の始業式を見学させて頂いたとき、先生が一人一人の名を呼んで対応し、一人一人を大切にする姿が印象深く、感動した。帰国して、日本で拝見した生徒を大切にする対応について、教職員とその経験をシェアさせてもらった。今、我々の課題は職業学校に入つても、就職が出来ないこと。職人として人材が失われつつある。
- ・ 台中市と県が合併して難しいところがあるのは事実。しかし台中市としても友好交流を大切にしている。今後もがんばって行きたい。
- ・ 日本では、年を召されてから別の地域で生活される方がいると聞いている。今、タイに行く方が多いと聞いた。台中市の方が気候も良く、環境が整っているので、例えば冬の間だけでもぜひ台中市へお越し頂きたい。「日本村」を作つて移り住んでもらうというアイデアがある。他にも色々と日本との交流はアイデアがあるので、今後も意見交換をしていきたい。
- ・ 今後の両地域の交流に期待する。

＜訪問団＞

- ・ 日本と国交の無い台湾だが、日本との関係は歴史がある。国レベルでは色々あるが、民間レベルでの交流は行政と共に進めてきた。鳥取県議会でも日華議連を作つて交流を行ってきた。台中市とは13年前よりJAが二十世紀梨の輸出をしたいという機会から交

流が始まった。

- ・ 日本では教育力が低下している。台湾には日本で失われた教育の原点があると、以前、東海大学や高校を視察して感じた。
- ・ これまでも台中市と鳥取県の子ども達の交流をさせていただき、とても良い経験となっている。ホームステイに行くと、子どもが行儀良くなつて帰つてくると親も喜んでいる。ぜひ、続けて、さらに拡充していただきたい。
→（徐副市长）はい、わかりました。
- ・ 台湾は始めて。農業、農産品の輸出興味がある。ぜひ、輸入の検討を。
→（徐副市长）今回の訪台では、石岡農会に行かれるとのこと。東勢など、ぜひ他の地区にも行っていただきたい。

【国際花博の概要】

（1）国際花博とは

国際園芸家協会が認定する国際園芸博覧会を指す。同種のイベントとしては、1990年に「国際花と緑の博覧会（花の万博）」（大阪）、2000年に国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000（淡路花博）」（兵庫）、2004年にしづおか国際園芸博覧会「パシフィックフローラ2004（浜名湖花博）」、2010年に「台北国際花の博覧会」などがある。

（2）2018年国際花博の概要

期間：2018年11月1日～2019年4月30日

場所：台中市后里地区の農地（81ヘクタール）



鳥取県日台親善協会とともに
徐副市长（右から6人目）を囲んで記念撮影



台中市庁舎

(1-2) 台中市議会（台中市）

〔応対者〕 台中市議会 張宏年 副議長

台中市議会を訪問し、張副議長と懇談を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

＜張副議長＞

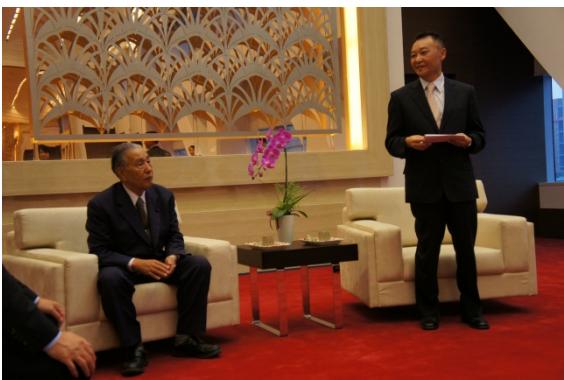
- 農業、青少年、観光、文化色々な交流を力強く行っていただいていることに感謝。旧台中県時代の交流が今も進んでいることは、日本との関係の深さの表れ。今後は経済交流にも取り組んでいきたい。本日、皆様がこられるのは友情が続いている証。今後も来訪されることを期待する。実は自分は鳥取県に行ったことがある。美味しい果物が印象に残っている。

＜訪問団＞

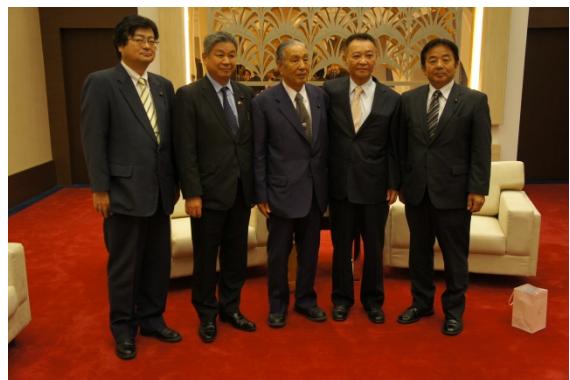
- 長い間台湾とお付き合いさせていただいている。国の関係を鑑み、どう向き合うかを考えると、地方・民間レベルで交流を一層進めて行きたい。
- 台湾とは日本と長く関係があり、行政機構も似ている。議会としてもお付き合いしやすいと考えている。関係を深めていきたい。
- 昨年1月に訪台した際に、三朝町、北栄町との交流を続けて頂くために、交流をさらに密にしていただきたい。とお願いさせていただいたが、本日も徐副市長に確認させていただいたところ。今後も学ぶところは学びながら交流を深めていきたい。
- 私は農業、青少年交流に熱心に取り組んできた。実際に東勢区の教員宅に中学生とホームステイしたことがある。隔年で相互に青少年を派遣して交流しているが、今後この交流をさらに充実させたいと思う。
- 私は鳥取からの農産品輸出に关心があり、その視点で視察させていただく。今は梨が多いが、その他の産品に拡大できるようにつながりができればと思う。
- 昨年は鳥取でまんが博覧会を行い、台湾から多くの方に来ていただいた。ことしひグリーンウェーブということで、イベントを行っている。来年は障がい者の文化祭があるのでぜひ来ていただきたい。

【台中市議会の概要】

- 議員定数は62議席で、5分の3は旧台中県からの選出。
- 民進党所属議員が26人、国民党所属議員が28人で、拮抗はしているが、いずれも過半数に達していない。
- 市議会庁舎は、14階建てで、2013年1月に完成。建設費20億元。なお、市庁舎は、40億元であり、現在、整備中である駐車場等の周辺工事を含めると総額では70億元、日本円で330億円を超える大事業。



張宏年 副議長 あいさつ



張副議長（右から二人目）を囲んで記念撮影



台中市議会



台中市議会議場

(1-3) 台中市議会夕食会（台中市）

〔応対者〕 曹朝榮 議員 他議員 1名

（事務局） 洪鴻壤 副秘書長ほか職員

台中市議会主催の歓迎夕食会を開催していただき、鳥取県日台親善協会とともに参加し、意見交換を行った。



歓迎夕食会の様子



台中市議会事務局洪副秘書長との
記念品交換（中央は曹朝榮市議会議員）

【平成25年10月24日（木）】

（2-1）東海大学（台中市）

〔応対者〕王良原 農学院食品科学学科教授

鳥取大学と2012年に国際学術交流協定を締結した東海大学を訪問。王良原 農学院食品科学学科教授の案内で、キャンパスを視察した。詳細は以下のとおり。

【主な説明内容】

<大学概要>

- ・東海大学は中国大陸にあった13校のキリスト教の学校を合併して設置。日本のICU（国際基督教大学）と同時期にアメリカからの同じ支援で出来たことから、緑を豊かに、その中に建物を配置するという非常に似た設計になっている。
- ・キャンパスの広さは東京ドーム28.5個分。
- ・東海大学では1年生は全寮制。

<文理太道・中庭>

- ・文理太道は左右に大きく育った木が枝を伸ばし、緑のトンネルになっている。
- ・「緑のトンネル」は、1955年の建学当時、敷地の中央になだらかな坂の道を作り、その両側にガジュマルの木を植え、左右に各学部を配置。
- ・中庭は、学生たち同士、あるいは教員と学生がコミュニケーションを取るには、お互いの顔が分かり、「おーい」と声をかけて届く範囲でなければならない。その距離が35メートルということで、35メートル四方が基本となった。

<校舎>

- ・学長室のある建物は、建学当時のままであり、日本家屋、あるいは唐時代の建物に似せたと言われている。
- ・図書館は台湾で最初に開架書庫を導入。
- ・チャペルは東海大学のシンボル。設計者はイオ・ミン・ベイ（貝聿銘）。広州出身で香港を経由して渡米し、成功した設計家で、代表作はルーブル美術館前のガラスのピラミッドや滋賀県にあるMIMO美術館が彼の作品。

<農学院の取組>

- ・農学院畜産学科は、学内で乳牛200頭を飼育。学内には営業許可を取った乳製品加工場があり、乳製品を製造・販売。



文理太道（緑のトンネル）



35メートル四方の中庭



学長室のある建物



図書館



市民の憩いの場にもなっているチャペル



学内で飼育している乳牛

(2-2) 東海大学昼食会（台中市）

〔応対者〕 閻立平 農学院院長、王良原 農学院食品科学学科教授ほか

キャンパスを見学した後、学内の実習室において、農学院餐旅管理学科（Hospitality Management）の学生の接待で、昼食会を開催し、大学関係者と意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

＜閻農学院院長＞

- ・ 鳥取大学と国際学術交流協定を締結しているが、鳥取県の学生と東海大学の学生がそれぞれ行き来をし、今以上に交流（インターンシップ受入など）を深めていきたい。
- ・ 鳥取県の大山乳業や黒毛和牛、きのこ研究、また砂丘、観光、グリーンツーリズム等で鳥取県と連携を深めていきたい。

＜王教授＞

- ・ （王教授は、台湾政府の依頼で東京に物産館をつくるプロデューサーに就任）是非とも鳥取の観光、食材、自然などを紹介する施設（アンテナショップ）を台中市に作るべき。
- ・ 台湾の学生をホテルや旅館だけでなく、様々な分野の鳥取の企業にインターンシップ生

として送り出し、鳥取の魅力を存分に学んでもらう。そして、帰国後、インターフィークス生たちが鳥取県アンテナショップでアルバイトすれば、絶対、鳥取の魅力を力強く、発信できると思うので、考えて欲しい。

<訪問団>

- ・ 鳥取県は農林水産業を重要視しているが、食品加工分野は少し遅れているように思う。食品加工技術を有する東海大学と協力いきたい。



学内の牧場で育てている乳牛から
搾ったミルクで乾杯



学内の乳製品加工場で作った
柚子と葡萄のヨーグルト



餐旅管理学科の学生



閻農学院長（左から3人目）を囲んで
記念撮影（右端は王教授）

（2-3）台中市教育局体育処（台中市）

〔応対者〕（台中市教育局）王銘煜 副局長

（台中市教育局体育処）賴曼炫 秘書、陳冠佑 運動組組長

（台湾ビッグフットジョギング協会）劉金書 会長、楊振旺 副会長、吳大修 副総幹事

台中市教育局体育処を訪問し、王副局長や昨年、鳥取マラソンにも参加された台湾ビッグフットジョギング協会の方と意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

<王副局長>

- ・ 台中市は岐阜県とサッカー交流についての姉妹提携を結んだ。昨年、蔡副市长を団長に

岐阜県に行ってサッカー交流を行った。今年12月には、沖縄のマラソン大会に選手を派遣する予定。こうした交流を通じて、スポーツだけでなく色々な交流を深めたい。

<劉ビッグフット協会会长>

- ・ 今年3月27日に台中でのマラソン大会に鳥取県から参加していただき感謝。去年も鳥取マラソンに参加させていただいた。台湾ビッグフット協会は日本との交流に興味があり、これまで沖縄、北海道など多くの大会に参加させていただいたが、これからは鳥取とも交流を進めたい。

<訪問団>

- ・ ホームステイが子供達の交流に意義があると考えており、続けていただきたいと考えている。ビッグフットさんには昨年鳥取マラソンに来ていただいた。これも続けていただければと思う。そのときの感想や改善点についてお聞かせいただき、どうすれば多くの台湾人にきていただけるか参考にしたい。
→(劉会長) とても人情味のある大会だと思う。鳥取マラソン参加した後には鬼太郎ロード、コナンのふるさと館などを観光・視察ができ、良い思い出となった。ぜひ、また機会があれば参加したい。
- ・ どうすれば、青少年が日本に来なくなるか。また、高齢者のマラソン交流を進めるにはどんなアイデアがあるか、お聞かせ願いたい。
→(劉会長) 台中市では60~70代向けのマラソン大会もある。色々テーマがあり、音楽をテーマにする大会や観光地である石岡ダムの景色も見られる大会がある。5km、10kmといった短いものは高齢者に向いているかと思う。
台湾のビッグフット協会は50~70代が多い。スポーツを通じた交流はとても有意義で健康にも良い。走る時に地域の景色も見られる。年配な方はゆっくり走れば良い。日本のマラソンの大会の取り組みはとてもすばらしい。学ぶことがある。鳥取県との交流も進めたい。沖縄との交流は10年目となつたが、鳥取県との交流に期待している。
- ・ 鳥取マラソンは、鳥取砂丘をスタート地点とし、コース変更を検討されている。
→鳥取砂丘をスタート地点とすることはとても良い発想だと思う。楽しみ。
- ・ 青少年交流を盛んにするには、どうすれば良いか?
→(副局長) 今年の夏に石岡中学校が鳥取に行った。日程の中で梨狩り、アイスクリーミー作りなど、生徒が自分で体験するメニューが好評だった。これまで、サマースクール事業は相互に派遣する形だったが、今後は人数や回数を増やしてみたいと考えている。今年は石岡の生徒だったが、来年はぜひ大肚区を見学して欲しいと思う。今年のサマースクールの参加者を募集した時、12人の枠に60人の生徒が応募した。公平のためにくじで決めた。日本への旅行は台湾人に魅力があるので、サマースクールの回数を増やすということには自信がある。
- ・ 交流しやすい機会を作るということと、なるべく皆さんの負担が少なくなるように条件を整えることが重要。観光・スポーツ交流などでもチャーター便で往来すれば負担は少ない。今は1年に3回くらいだが、チャーター便をもっと増やしていくように旅行会社と相談していくことが必要。個人負担を減らすことで、相互の交流が続くように考えていきたい。お互いに知恵を出し合って、なるべくコストをかけず、有意義なものにし

ないと長続きしない。



台中市教育局



王副局長（前列左から2人目）を囲んで記念撮影
(後列右から3人目が劉会長)

(2-4) 石岡区農会（台中市）

〔応対者〕（石岡区農会）呉維章 理事長、張東海 総幹事

（石岡区公所）王偉誠 区長（途中から）

鳥取県から梨の穂木を輸出している石岡区農会を訪問し、意見交換を行った。石岡区農会から、訪問団に対して、梨の穂木の件で要望がなされた。王区長からも梨の穂木の問題に対応してもらうよう、要望がなされた。意見交換後、石岡区農会の梨園を見学。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

＜石岡区農会からの要望内容＞

① 穂木の出荷数量の増加

- ・ 1998年から鳥取県から梨の穂木を輸入しているが、希望しただけの穂木が届かない。以前は希望した数量の8割前後は出荷していただいていたが、今では4割前後。これでは農家は生産できない。
- ・ 他の梨生産地は新潟、秋田など他県の穂木を入れているが、石岡は鳥取だけで、一度も他の産地から買ったことはない。鳥取産の穂木は農家の人気が高いが、必要数量が確保できないと生産が落ち込み、困っている。
- ・ しかも、石岡区は后里区、新社區、大湖区と穂木を共同輸入しており、その窓口が石岡区なので、他の地区からも叱られている。中国産は輸入が禁止されていたが、穂木の不足から一昨年から輸入が解禁になった。価格は鳥取産の半分。それでも、石岡区は中国産を使っていない。しかし、農家は毎年、穂木が確保できるかどうか不安を抱えており、何とかして欲しい。

（参考）穂木の出荷数（鳥取県農林水産部資料）

単位：箱（10 kg）

年度	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
出荷数	4,394	2,633	2,791	1,623	2,213

② 正確な穂木情報の提供

- ・ その年の生育状況のレポートが、送られてきて、そこに穂木の生産量が書いてあり、この数量をベースに農家の希望を聞いているが、届く穂木の量は、毎年、この数字より少ない。正確な情報が欲しい。

③ 植物防疫現場への通訳の配置

- ・ 穂木を輸出できるのは、台湾の植物防疫検査官の検査に合格した果樹園の穂木だけだが、これまで鳥取県の国際交流員が検査現場にずっと居てくれて、通訳してくれて本当に助かった。
- ・ しかし、今は対応してくれる時間が短い。その結果、コミュニケーション不足になり、検査がうまくいかない。以前のように協力して欲しい。

④ 梨の新品種の輸出

- ・ 鳥取県の農業試験場が開発した新品種の「新甘泉」「なつひめ」に非常に大きな関心を持っている。その穂木が欲しい。

<王区長>

- ・ 石岡区農会の要望に対して、真摯に対応して欲しい。

<訪問団>

- ・ 非常に難しい問題であるので、帰国後に関係者に事情を聞き取り、対応したい。

【石岡区農会の概要】

農会は日本の農協のような組織。非政府組織ですが、農会法の適用を受け、台湾行政院農業委員会、全国農会、台中市農会、そして、石岡区農会という上下関係がある。石岡区農会の会員数は約3000人、主要生産物はポンカン、高級梨。



石岡区農会



石岡区農会との意見交換の様子



吳理事長（前列左から2人目）を囲んで記念撮影
(後列の方が王区長)



梨園見学の様子

（2－5）石岡区夕食会（台中市）

〔応対者〕（石岡区公所）王偉誠 区長、李小玉 区長夫人、范揚俊 主任秘書ほか職員
（石岡区農会）張東海 石岡区農会総幹事
（客家事務委員）賴朝暉主任委員
（僑光科技大学）王喆 博士
（その他）謝震穎 元石岡郷長

石岡区主催の歓迎夕食会を開催していただき、鳥取県日台親善協会とともに参加し、意見交換を行った。



歓迎夕食会の様子



王区長との記念品交換

【平成25年10月25日（木）】

(3-1) 国立陽明高級中学（桃園市）

〔応対者〕（国立陽明高級中学）林清波 校長ほか教職員

（国立陽明高級中学家長会（PTA））何良鴻 会長、許長壽 名誉会長

（桃園県政府教育局）蔡忠烈 副秘書長

県内の高校と交流を行っている国立陽明高級中学を訪問し、林校長以下、学校関係者と意見交換を行った。その後、林校長の案内で校内施設を視察した。詳細は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

<林校長>

- ・ 鳥取県とは長いお付き合い。米子東高校には昨年、一昨年を伺い、来年2月に依藤校長先生をお招きして姉妹校提携もする予定。
- ・ 本校と米子東高校との交流について、鳥取県議会としてもしっかりと応援して欲しい。
- ・ 海外交流旅行だけでなく、様々な分野や交流を広げていきたい。
- ・ 生徒の学力向上に力を入れており、大学合格率は99%。
- ・ 台湾大学、交通大学、政治大学、清華大学など一流国立大学をはじめ、50～60%は国立大学へ進学。ひとえに教職員の努力の賜物。
- ・ 設備の充実にも力を入れているし、生徒たちも頑張って勉強している。大学進学の勉強のため、高校3年生の16%は寮に住んでいる。

<何家長会（PTA）会長>

- ・ 2800人の生徒の家族の代表として歓迎する。これから米子東高校と姉妹提携をしますが、PTAとして嬉しく思うとともにPTAとしても微力ながら支援していきたい。陽明高級中学の先生方と協力して連携を進めていきたい。

<訪問団>

- ・ 台湾にこそ、日本が失った教育の原点があると思うので、しっかりと学びたい。



林校長（右から3人目）、何会長（左から3人目）を囲んで記念撮影



学校正面の電光掲示板

【主な説明内容】

<職員会議室>

- ・ 「阿成廳」と名付けられた会議室。座席数は180で、134人の教員が参加する職員会議が開かれる。
- ・ マイクのスイッチを押すと、自動でカメラが発言者の顔を捉え、スクリーンやテレビに表情を映し出す。照明や音響もボタンひとつで調整できる。すべて、林校長のアイデアを国が認めて実現。

<校旗>

- ・ 校庭には、国立陽明高級中学の校旗、台湾国旗、米子東高校の校旗を掲揚。

<言語教室>

- ・ 国立陽明高級中学では、英語、日本語、フランス語、イタリア語、スペイン語の五ヶ国語を教えている。

<その他の学校施設>

- ・ 英語教室、生徒4人が1つの机を囲み、ディスカッションしながら学びコミュニケーション教室、パソコン教室、映画鑑賞などに使用する映像教室、音楽や芝居の発表などに使用する劇場教室、生徒の作品を展示するギャラリー等を設置。

【国立陽明高級中学の概要】

- ・ 台湾の学制は幼稚園、国民小学、国民中学、高級中学、大学であり、高級中学は、日本の高校に相当し、日本と学制が似ている。
- ・ 普通科27クラス、美術科3クラスからなり、生徒数は2700人。林清波校長以下134人の先生方で指導を行っている。2008年以来、毎年、教師、生徒からなる交流団が来県。米子東高校とは毎回、また、倉吉農高、境港総合技術高校とも交流している。



職員会議室



温水プール（写真手前が校旗）



体育館兼講堂



言語教室



英語教室



コミュニケーション教室



パソコン教室



映像教室



劇場教室



ギャラリー



校舎（学内の雰囲気は高校というより、大学といった感じ）

（3－2）国立陽明高級中学昼食会（桃園市）

〔応対者〕（国立陽明高級中学）林清波 校長ほか教職員
（国立陽明高級中学家長会（P.T.A.））何良鴻 会長
（桃園県議会）萬美齡議員（冒頭のみ参加）
（桃園县政府教育局）吳林輝局長（途中退席）

陽明高級中学主催の昼食会を開催していただき、意見交換を行った。

【主な意見交換内容】

＜林校長＞

- ・ 来年2月に台湾で国立陽明高級中学と米子東高校が姉妹校協定を締結する予定であるので、是非、鳥取県議会からも参加していただきたい。
→（台湾訪問団）持ち帰って、議会内で相談したい。

（3－3）鼎三國際企業有限公司（台北市）

〔応対者〕林定三 会長

島根県雲南市の米の輸入に取り組んでいる鼎三國際企業有限公司を訪問し、林会長と意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

<林会長>

- ・ 鳥取県は梨が有名。台湾には量販店、スーパー・マーケット（二等クラス。「マツセイ」など）、そごう・伊勢丹・高島屋という日系スーパー（百貨店）という販売店のピラミッドがある。
- ・ 一番上の日系の店舗は約30店舗。高級志向が強い。それぞれの店が春秋の二回、店舗で物産展を開いている。
- ・ 今はマスカットが人気、岡山、島根、山形から輸入しているが、700グラムが1箱で1600円。あんぽ柿、桃も人気。野菜より、果物の方が売れる。桃は福島産が人気だったが、今はだめ。安心安全志向が高い。
- ・ 鳥取県ではカニも人気、水産物もイメージは島根県と同様、悪くない。旬のものを販売することが大事。
- ・ 日本の賞味期限は短すぎる。消費期限にすべき。三ヶ月ではだめで、半年に伸ばないだろうかと思う。3ヶ月は最低でもないと買えない。だいたい二ヶ月店頭に並べ、それで返品しているので、6ヶ月か、9ヶ月が必要。そうするとお店も安心だし、売れ残らない。だから海苔、缶詰などがいい。
- ・ 台湾は米を年間15万トン輸入している。WTOの関係もあるので、65%は政府米。35%は民間で5万トンくらい。銘柄は6～7種類。当社が台湾の日本産米の7割を扱っている。
- ・ 当社は、日本に権利金を払って、100～150トンを輸入している。
- ・ 香港、シンガポールも日本米を輸入していたが、現在、香港は中国に遠慮して、輸入を止めている。
- ・ 日本の米の生産は農協の関係と、農業法人の関係などシステムは様々なものがある。国内の様々な調整もあるので、当社は新規需要米として契約して輸入している。
- ・ ある県の物産展に協力していますが、試食や来場者へのお土産はその県がサポートしています。生産者は海外に出てくるだけでも大変。やはり、海外に売るには県のサポートが重要。
- ・ 物産フェアで、どれが売れるかと示すことが、貿易商社やデパートにインパクトを与える。売れないものは買わない。売れるということを示すことが大事。
- ・ ただ、その例外は台北駅の鬼太郎商店。開店前には、そうした取り組みはなかったが、人気がある。しかも、それで鳥取県に行きたいという人も出てきている。こうした人気も利用して、鳥取県が県内の企業や農協に声をかけて、物産展をやるのがいいと思う。
- ・ 高雄の高島屋では、日本全国の商品を並べる物産展を春秋でやっている。単独で難しいなら、こうした機会に参加することがいいのではないか。金土日曜日だと10ワゴンが基本であるが、別のある県は私たちが間にに入って2ワゴンでやっている。
- ・ デパートの物産展では実演販売が有効。別の県は蕎麦の実演販売が人気である。目の前で蕎麦を売って、茹でて食べてもらう。つくるところを見せることが、買う人の安心安全に繋がる。見て、食べて、美味しかったとなると購買力のある人は必ず買う。しかし、外国の馴染みのない食品は、それが美味しいか分からなければ、買わない。だから、県のサポートで大事になってくる。

- ・ 米は日本全国と付き合いがある。実はデパートで売るには綺麗な袋、つまりパッケージが大事。
- ・ 持って帰るのは2キロが限界。1キロでもいい。5キロはだめ。消費者の行動を考えないといけない。たくさん売りたいから、大きな袋と考えてはダメ。そして、パッケージだけでも欲しいというような米は売れる。県がサポートするのなら、県の観光PRなどに袋の裏を使ってもいいのではないか。それならば、(デザインなどに公費を使っても県民に)分かつてもらえる。食味が大事だが、やはりこうした消費者に手に取ってもらう工夫が大事。
- ・ 安くても味のダメなものはダメ。特別栽培の米は、台湾の人には認知されていないので、取り扱わない。肥料と農薬は半分にしても、2割高くなるは意味がない。どうせするなら、有機栽培。徹底しないといけない。
- ・ 特別栽培米は行政機関が手続き費用を取って高くしているのが問題。低農薬など言っても無理で、どこの農家が、どう作ったかは意味がない。栽培農家の顔を入れて、こうしてつくっています、有機栽培ですとしっかり消費者に理解してもらうまで、PRしないといけない。
- ・ 当社は、米のほかに日本酒とお茶を取り扱っている。
- ・ 当社と島根県との付き合いは副知事が来られてから、付き合いが始まった。やはり人間関係が商取引でも基本。県が物産展をやって、県内の企業さんに勉強してもらって、考えてもらうことが大事。
- ・ 繰り返しになるが、米であっても、食べて、食べてと試食させて、焼き込みご飯やお寿司など、こうした食べ方があると、PRしなといけない。
- ・ アメリカの食品安全強化法の影響は今の台湾にはない。



林会長との意見交換

(3-4) 台湾政府外交部（亞東関係協会）歓迎夕食会（台北市）

〔応対者〕 羅坤燦 秘書長、陳志任 秘書組組長、林雍凱係長ほか

台湾政府外交部（亞東関係協会）主催の歓迎夕食会を開催していただき、意見交換を行った。主な意見交換の内容は以下のとおり。

【主な意見交換内容】

<羅秘書長>

- ・ 日台は国交がないが、日台関係はこれまでになく良い状態が続いている。経済交流は盛んで、今ではなくてはならないパートナー。新しい、理想的な国交を築いていきたい。

<訪問団>

- ・ 地方政府間での友情と信頼が基本。友情と信頼の上に、経済、文化、青少年などの交流を積み重ね、お互いの地域が、お互い幸せになれるよう連携を深めていきたい。



羅秘書長（前列中央）を囲んで記念撮影